



Japan Association for Medical Informatics

JAMI 標準 (JAMISDP01)

# 処方・注射オーダー標準用法規格

日本医療情報学会

2025 年 4 月

1. 目的と名称.....	2
2. 取り扱う用法の種類 .....	2
3. 対象とする用法と用法記述 .....	3
4. コード体系の基本方針 .....	3
4. 1    用法のコード体系 .....	3
4. 2    補足用法のコード体系 .....	3
5. 内服コード体系の仕様 .....	4
5. 1    食事等タイミングを基本とする内服用法 .....	4
5. 2        1 日回数と時間間隔を明示した内服用法 .....	6
5. 3        1 日回数と服用時刻を明示した内服用法（時刻指定型Ⅰ） .....	7
5. 4        1 日回数とイベントを明示した内服用法（時刻指定型Ⅱ） .....	8
5. 5        頓用型の内服用法 .....	10
5. 6        その他の内服用法 .....	11
6. 外用コード体系の仕様 .....	11
6. 1    生活リズムを基本とする外用用法 .....	11
6. 2        1 日回数だけを明示した外用用法 .....	13
6. 3        時間間隔で明示した外用用法（時刻指定型Ⅰ） .....	15
6. 4        頓用型の外用用法 .....	17
6. 5        外用用法における部位の指定 .....	17
7. 注射・注入コード体系の仕様 .....	18
8. スケジュール用法の仕様 .....	19
8. 1    日数間隔指定 .....	19
8. 2    曜日指定 .....	20
8. 3    日付指定 .....	20
8. 4    指定期間内回数指定 .....	21
9. 不均等投与の仕様 .....	22
10. 用法コード表 .....	22
11. 用法コードに 1 対 1 対応する用法名称 .....	23

1 2. 用法コードの管理情報.....	23
1 3. 本規格でコード化できない場合の取り扱い.....	24
1 4. 文中から参照される表.....	24
表 1 基本用法区分コード .....	24
表 2 用法詳細区分 .....	24
表 3 タイミング指定区分コード .....	26
表 4 イベント前後タイミング区分.....	27
表 5 時刻指定文字コード .....	27
表 6 イベント区分、イベント詳細区分.....	28
表 7 イベント附帯条件区分.....	30
表 8 頓用イベントコード表.....	31
表 9 頓用時の時間間隔コード表 .....	33
表 1 0 頓用時の上限回数コード表.....	33
表 1 1 外用回数指定コード表 .....	34
表 1 2 外用時間間隔指定コード表.....	34
表 1 3 外用部位コード表 .....	35
表 1 4 時間的要素・機器区分コード表.....	38
表 1 5 実施環境・施行者区分コード表.....	38
表 1 6 補足用法区分コード表 .....	38

改訂履歴		
日付	バージョン	改訂内容
2012.02.16	初版	JAMI 標準承認版
2015.08.20	2014.11.25 版	－
2016.02.12	2016.01.20 版	－
2016.05.02	2016.05.01 版	・添付表に注射・注入やスケジュール用法の仕様が含まれていなかったため、添付表 1 の差替えと添付表 5 の追加を行いました。
2018.03.13	2018.03.01 版	・「6. 3 時間間隔で明示した外用用法(時刻指定型Ⅰ)」の4)5)の誤記修正を行いました
2022.01.20	2018.03.01 版	・表紙を JAMI 標準として統一し、改訂履歴を追記しました。 ・目次に表 7 が抜けていたため修正しました。
2022.03.31	2018.03.01 版	・添付表 2 の(注2)の誤記修正を行い、差し替えました。
2024.03.01	2024.03.01 版	・5. 1 食事等タイミングを基本とする内服用法「食事中」を追加すると共に、説明文や表 4 の加筆修正もあわせて行いました。 ・表13 外用部位コード表に「口角」「手首」「腰」「足首」を追加し、「全胸部」を「胸部」に改めました。
2025.04.18	2025.04.18 版	・電子処方箋用法等や現実世界の運用を考慮し、内服および外用の回数を拡張しました。 ・「口腔内塗布」について外用用法での利用を考慮しました。 ・本規格でコード化できない場合の取り扱いについて、13章に追記しました。

## 1. 目的と名称

本仕様は、処方オーダーシステムおよび注射オーダーシステムで使用する用法（服用や注射の方法、回数、タイミング等）の記述方法の標準を示す規格である。またお薬手帳、処方箋 2 次元バーコード、電子処方箋などで用法を記述する際にも使用されることも想定している。

内容的には 2012 年 1 月に公表し 2014 年 11 月にアップデートされた「処方オーダーリングシステム用標準用法『服用回数、服用のタイミングに関する標準用法マスタ』（内服および外用編）」に対して、注射・注入コード体系の仕様、スケジュール用法の仕様、不均等投与の仕様を追加し、名称を変更したものとなっており、第 6 章までは仕様に変更はない。

また、内服薬の用法記述については、「内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会報告書」<sup>1</sup>に記載されている「服用回数、服用のタイミングに関する標準用法マスタ」<sup>2</sup>を含む規格となっている。

本規格は「処方・注射オーダー標準用法規格」と称し、その略称として「標準用法規格」を使用する。

## 2. 取り扱う用法の種類

1) 第 5 章、第 6 章では、1 日分の処方オーダーで使用される内服用法および外用用法のうち、服用回数、服用のタイミングに関する標準用法、すなわち 1 日以内での服用タイミングや 1 日投与回数、服用方法、外用における使用部位、服用回数やタイミングに追加される制約条件の記述方法を対象とする。

以下に例を示す。

服用タイミングや 1 日服用回数： 1 日 3 回朝昼夕食後、腹痛時、など

服用方法：内服、貼付、など

外用における使用部位：手足、左眼、など

制約条件：1 日最大 5 回まで、6 時間以上あけて、など

2) 第 7 章では、注射オーダーで使用される用法について、内服用法や外用用法と整合性を取る形で記述している。

3) 第 8 章では、複数の日にまたがる服用方法（たとえば隔日投与、曜日投与

---

<sup>1</sup> 平成 22 年 1 月 29 日厚生労働省医政局総務課医療安全推進室  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/01/s0129-4.html>

<sup>2</sup> 前記報告書 p8 5. 1) に「処方オーダーリングシステム等には、原則として服用回数、服用のタイミングに関する標準用法マスタを使用することとする」との記載がある。

など) の用法については、スケジュール用法と名付けて記述している。

4) 第9章では、1 日内で服用タイミングごとに服用量が異なる場合（いわゆる不均等投与）の用法について記述している。

### 3. 対象とする用法と用法記述

前記検討会の議論にもとづき 2011 年 9 月 29 日付けで一般社団法人 日本病院薬剤師会と公益社団法人 日本薬剤師会により、内服薬、外用薬に関する「標準用法用語集（第 1 版）」が公表され、2016 年 1 月には注射薬等を含む第 2 版が発行された。さらに、2024 年 2 月および 2025 年 3 月には用法用語が追加・変更され、それぞれ第 2.1 版、第 2.2 版が発行された。本規格はここで提示された標準用法一覧に収載されている用法と用語だけを対象として、そのコード化を行うものとし、用法記述については本仕様独自の変更や追加は原則として行わない。

## 4. コード体系の基本方針

### 4. 1 用法のコード体系

- 1) 16 桁固定長半角英数字コードとする。
- 2) 桁ごとのコードには内服・外用などごとに一定の意味を持たせた体系とする。
- 3) 標準用法が将来増える場合にも対応できる拡張性を予め持たせる。
- 4) 原則として内服・外用などの区別およびそれぞれにおける用法詳細区分に関する情報、1 日回数とそのタイミングの組み合わせを記述することを基本とし、結果としてコード内に情報の冗長性があっても構わないものとする。
- 5) 本仕様では拡張性を考えた仕様を記載しているが、実際に使用できる用法コードは限定される。すなわち、仕様上可能であるから用法コードとして使用して良いというわけではない。

16 桁コードの各桁の使用方法、およびすべてのコード一覧は別添資料にまとめる。また仕様の詳細は第 5 章から第 7 章で説明される。

### 4. 2 補足用法のコード体系

隔日投与や曜日指定投与といった複数の日にまたがる投与スケジュール、およ

び 1 日内の不均等投与量の指示は、16 桁の用法コードとは別に、複数繰り返し可能な 8 桁の補足用法コードを用いて表現する。補足用法コードは必要な場合にだけ 1 個の用法コードに追加して 1 個以上使用するものである。仕様の詳細は第 8 章から第 9 章で説明される。

## 5. 内服コード体系の仕様

### 5. 1 食事等タイミングを基本とする内服用法

食事等タイミングを基本とする内服用法とは、「1 日 3 回朝昼夕食後」などのように食事タイミングを基本として服用タイミングを指定する種類の用法である。起床時、就寝前、という服用タイミング指定もこれに含まれる。

また、食事タイミングを基本とした用法に追加して特定の時刻にも服用を指示する用法がある（1 日 5 回朝昼夕食後、15 時、就寝前）が、これもこの用法に含まれる。

16 桁の各桁のうち上位 10 桁を上位の桁から順に以下のように使用し、下位 6 桁（上位から第 11 桁～16 桁）は未使用として固定値 0 を設定する。

#### 1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：1

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）を使用して、内服では 1 を設定する。

#### 2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、内服では経口、舌下、バツカル（歯茎と頬の間に挟む）、口腔内塗布のいずれかを区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。

#### 3) 第 3 桁：タイミング指定区分 固定値：1

タイミング指定区分は、服用タイミングの区分を示す情報であり、表 3（末尾）を使用して、食事等タイミングを基本とする内服では 1 を設定する。

#### 4) 第 4 桁：1 日服用回数 可変値：1～5

1 日服用回数は、1 日に服用すべき回数を明示するために使用する。

食事等タイミングを基本とする内服では、1 日 1 回から 1 日 5 回までが許容される。

以下 5) ～ 9) 第 5 桁～第 9 桁：食事等のタイミングを具体的に表すために使用し、表 4（末尾）から必要なコードを使用する。

なお、第 6 桁～第 8 桁は、順に夕食、昼食、朝食の順となっており、直感的な朝昼夕の順序と逆の印象を持つかもしれないが、意図的にこのような順序にしているので注意すること。

5) 第 5 桁：就寝前の服用指定 以下のいずれかを設定する。

服用指定なし：0

就寝前服用指定あり：1

※本仕様では「就寝時」は「就寝前」と同義とみなしている。

6) 第 6 桁：夕食時の服用指定 以下のいずれかを設定する。

服用指定なし：0

食前の服用指定あり：1（食前 30 分以内）

食直前の服用指定あり：2（食事の 5 分前～直前）

食事時の服用指定あり：6（食事中）

食直後の服用指定あり：3（食後 5 分以内）

食後の服用指定あり：4（食後 30 分以内）

食後 2 時間後の服用指定あり：5（いわゆる食間）

7) 第 7 桁：昼食時の服用指定 以下のいずれかを設定する。

服用指定なし：0

食前の服用指定あり：1（食前 30 分以内）

食直前の服用指定あり：2（食事の 5 分前～直前）

食事時の服用指定あり：6（食事中）

食直後の服用指定あり：3（食後 5 分以内）

食後の服用指定あり：4（食後 30 分以内）

食後 2 時間後の服用指定あり：5（いわゆる食間）



8) 第 8 桁：朝食時の服用指定 以下のいずれかを設定する。

服用指定なし：0

食前の服用指定あり：1（食前 30 分以内）

食直前の服用指定あり：2（食事の 5 分前～直前）

食事時の服用指定あり：6（食事中）

食直後の服用指定あり：3（食後 5 分以内）

食後の服用指定あり：4（食後 30 分以内）

食後 2 時間後の服用指定あり：5（いわゆる食間）

9) 第 9 桁：起床時の服用指定 以下のいずれかを設定する。

服用指定なし：0

起床時服用指定あり：9

※就寝前（あるいは就寝時）指定と異なり 1 ではないので注意

10) 第 10 桁：時刻指定の服用

追加すべき時刻指定の服用指示がある場合に 1 つだけ設定

設定値：0（ゼロ）または P（英字のピー）

時刻指定の方法：

24 時制で 0 時を英字 A、1 時を英字 B、2 時を英字 C として、以下順に英字をアルファベット順に割り当て、23 時を第 24 文字目である英字 X を設定する。この桁は、実際には「1 日 5 回朝昼夕食後、15 時、就寝前」でのみ使用され、15 時は英字 P が対応するので、設定値としては英字 P または指定なしを意味する 0 のどちらかとなる。

追加指定なし：0（ゼロ）

15 時： P（英字のピー）

対応表は表 5（末尾）を参照のこと。

## 5. 2 1 日回数と時間間隔を明示した内服用法

1 日回数と時間間隔を明示した内服用法とは、「1 日 3 回 8 時間ごと」などがその例である。

16桁の各桁のうち上位 5 桁を上位の桁から順に以下のように使用し、以降の桁は未使用として固定値 0 を設定する。

1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：1

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）を使用して、内服では 1 を設定する。

2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、内服では経口、舌下、バツカル（歯茎と頬の間に挟む）、口腔内塗布のいずれかを区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。

3) 第 3 桁：タイミング指定区分 固定値：2

タイミング指定区分は、服用タイミングの区分を示す情報であり、表 3（末尾）を使用して、1 日回数明示、時間間隔指定の内服では 2 を設定する。

4) 第 4 桁：1 日服用回数 可変値：2,3,4,6,8

1 日服用回数は、1 日に服用すべき回数を明示するために使用する。

時間間隔指定の内服では、1 日 2,3,4,6,8 回のいずれかだけが許容される。

5) 第 5 桁：1 日での服用開始時刻 可変値 A~X または 0

今後必要となるかもしれない、開始時刻を指定する特別な指定のために第 5 桁目はオプションとして開始時刻を設定できるものとする。たとえば「8 時から 1 日 3 回 8 時間ごと」のような指定が必要となった場合に使用し、指定が必要ない場合には 0 を設定する。

指定する場合には、既出（5. 1 第 10 桁）の時刻指定方法を使用し、午前 0 時～23 時に対応して英字 A~X のいずれか 1 文字を設定する。例えば午前 8 時の場合には、I（英字のアイ）が設定される。

### 5. 3 1 日回数と服用時刻を明示した内服用法（時刻指定型 I）

1 日回数と服用時刻を明示した内服用法とは、「1 日 3 回 8 時、12 時、18 時」などがその例である。

16 桁の各桁のうち上位から最大で第 12 桁までを上位の桁から順に以下のように使用し、以降の桁は未使用として固定値 0 を設定する。

1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：1

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）を使用して、内服では 1 を設定する。

2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、内服では経口、舌下、バツカル（歯茎と頬の間に挟む）、口腔内塗布のいずれかを区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。

3) 第 3 桁：タイミング指定区分 固定値：3

タイミング指定区分は、服用タイミングの区分を示す情報であり、表 3（末尾）を使用して、1 日回数明示、時刻指定での内服では 3 を設定する。

4) 第 4 桁：1 日服用回数 可変値：1～9、A

1 日服用回数は、1 日に服用すべき回数を明示するために使用する。

時刻指定の内服では、現在 1 日 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 回が認められている。

なお、A は 1 日 10 回を意味する。

5) 第 5 桁以降、最大第 14 桁まで：1 日での服用時刻 可変値 A～X または 0

服用時刻を上位桁から順に指定する。第 4 桁で示される 1 日回数に対応して 1 日 1 回の場合には第 5 桁のみ、1 日 2 回の場合には第 5 桁、第 6 桁のみを使用し、それ以降の桁は未使用として 0 を設定する。

指定する場合には、既出（5. 1 第 10 桁）の時刻指定方法を使用し、午前 0 時～23 時に対応して英字 A～X のいずれか 1 文字を設定する。例えば午前 8 時の場合には、I（英字のアイ）が設定される。

#### 5. 4 1 日回数とイベントを明示した内服用法（時刻指定型Ⅱ）

1 日回数と、服用タイミングを特定のイベントで明示した内服用法は、現時点の

標準用法記述では、「1 日〇回哺乳時」および「1 日 1 回空腹時」だけである。

16 桁の各桁のうち上位 6 桁を上位の桁から順に以下のように使用し、以降の桁は未使用として固定値 0 を設定する。

1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：1

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）を使用して、内服では 1 を設定する。

2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、内服では経口、舌下、バツカル（歯茎と頬の間に挟む）、口腔内塗布のいずれかを区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。

3) 第 3 桁：タイミング指定区分 固定値：4

タイミング指定区分は、服用タイミングの区分を示す情報であり、表 3（末尾）を使用して、1 日回数とイベントを明示指定の内服では 4 を設定する。

4) 第 4 桁：1 日服用回数 可変値：1～9、A、C

1 日服用回数は、1 日に服用すべき回数を明示するために使用する。

時間間隔で指定の内服では、第 5～7 桁が B70（哺乳時）の場合には 1 日 1,2,3,4,5,6,7,8,9,A,C 回が許容され、480（空腹時）の場合には 1 日 1 回だけが許容される。

なお、A は 1 日 10 回、C は 1 日 12 回を意味する。

5) 第 5～7 桁：イベント区分、イベント詳細区分コード、イベント附帯条件区分を示し、B70（「哺乳時」を意味するコード）または 480（「空腹時」を意味するコード）のいずれか。

イベント区分およびイベント詳細区分コードおよびイベント附帯条件区分については表 6（末尾）および表 7（末尾）を参照のこと。

## 5. 5 頓用型の内服用法

ある状況になったときに服用を指示する頓用と呼ばれる指示に使用する。

16桁の各桁のうち上位9桁を上位の桁から順に以下のように使用し、以降の桁は未使用として固定値0を設定する。

### 1) 第1桁：基本用法区分 固定値：1

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表1（末尾）を使用して、内服では1を設定する。

### 2) 第2桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、内服では経口、舌下、バツカル（歯茎と頬の間に挟む）、口腔内塗布のいずれかを区別するために用いる。コード表は表2（末尾）を参照のこと。

### 3) 第3桁：タイミング指定区分 固定値：5

タイミング指定区分は、服用タイミングの区分を示す情報であり、表3（末尾）を使用して、頓用型の内服では5を設定する。

### 4) 第4桁：1日服用回数 固定値：0

1日服用回数は、1日に服用すべき回数を明示するために使用するが、頓用用法では1日の服用回数を一定値で明示することは普通ないので、固定値0を設定する。

### 5) 第5桁：イベント区分 表6（末尾）

### 6) 第6桁：イベント詳細区分 表6（末尾）

### 7) 第7桁：イベント附帯条件区分 表7（末尾）

第5～第7桁を合わせて、頓用条件（イベント）を意味するコードを設定する。頓用条件は、イベントコード2桁およびイベント附帯条件区分コード1桁の組み合わせで構成される。イベントコード2桁は第5桁（イベント区分コード）と第6桁（イベント詳細区分コード）とから成り、表6（末尾）で示される。イベント附帯条件区分コードは、表7（末尾）を使用すること。

但し、表 6 の 2 桁と組み合わせて使用できるイベント附帯条件区分コードは決まっているので、使用できる組み合わせを表 8（末尾）に示す。

8) 第 8 桁：最低時間間隔                      可変値：0,1,2,3,4,5,6,8,C

頓用の際に、最低ある時間以上あけて用いることを指示したい場合に、この桁に最低時間間隔を 1,2,3,4,5,6,8 のいずれかの数値または C（12 時間以上あける指示）を設定する。表 9（末尾）を参照のこと。

指定が不要の場合には 0 を設定する。

例： 3 時間以上あけて                      :                      設定値 3

9) 第 9 桁：1 日最大用法回数                      可変値：0～9、A、C のいずれか

頓用の際に、1 日の最大用法回数を指定したい場合に、この桁にその回数を 1 以上の整数または A（10 回）、C（12 回）を設定する。表 10（末尾）を参照のこと。指定が不要の場合には 0 を設定する。

例： 1 日 6 回まで                      :                      設定値 6

10) 第 10 桁目以降は未使用で 0 を設定する。

## 5. 6                      その他の内服用法

「口腔内塗布」は内服の用法に分類されるが、後述する「6. 2                      1 日回数だけを明示した外用用法」の項を参照のこと。

## 6. 外用コード体系の仕様

### 6. 1                      生活リズムを基本とする外用用法

生活リズムを基本とする外用用法とは、「1 日 3 回朝昼夕」「1 日 1 回起床時」などのように生活リズム上の出来事や行為を基本として外用タイミングを指定する種類の用法である。なお、「起床時」「就寝」は内服用法においては「食事等タイミングを基本とする用法」に分類されているが、外用においては「生活リズムを基本とする用法」に分類している。

基本的な仕様は食事等タイミングを基本とする内服用法と同様の考え方で構成されており、16 桁の各桁のうち上位 10 桁を上位の桁から順に以下のように使

用し、下位 6 桁（上位から第 11 桁～16 桁）は未使用として固定値 0 を設定する。

1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：2

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）を使用して、外用では 2 を設定する。

2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、外用では貼付、塗布等を区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。表 2 から英字コードを必ず指定しなければならない。  
例：塗布 の場合には、用法詳細区分として B を指定する。

3) 第 3 桁：タイミング指定区分 固定値：6

タイミング指定区分は、外用タイミングの区分を示す情報であり、表 3（末尾）を使用して、生活リズムを基本とする外用では 6 を設定する。

4) 第 4 桁：1 日外用回数 可変値：1～5

1 日外用回数は、1 日に使用すべき回数を明示するために使用する。  
生活リズムを基本とする外用では、1 日 1 回から 1 日 5 回が許容される。

以下 5) ～ 9) 第 5 桁～第 9 桁：生活リズムにおけるタイミングを具体的に表すために使用する。

なお、第 6 桁～第 8 桁は、順に夕、昼、朝の順となっており、直感的な朝昼夕の順序と逆の印象を持つかもしれないが、意図的にこのような順序にしているので注意すること。（内服用法の仕様と同じ）

5) 第 5 桁：就寝前あるいは就寝時の使用指定 以下のいずれかを設定する。

使用指定なし：0

就寝前使用指定あり、または就寝時の使用指定あり：1

※「就寝時」と「就寝前」は本仕様では同義とみなし、いずれの場合でもコード 1（就寝前）を使用することとしている。

6) 第 6 桁：夕の使用指定 以下のいずれかを設定する。

使用指定なし：0

使用指定あり：9

午後指定あり：A

※ A を設定することによりこの桁を「午後の使用指定あり」という意味で使うことができる。

7) 第 7 桁：昼の使用指定 以下のいずれかを設定する。

使用指定なし：0

使用指定あり：9

8) 第 8 桁：朝の使用指定 以下のいずれかを設定する。

使用指定なし：0

使用指定あり：9

午前指定あり：A

※ A を設定することによりこの桁を「午前の使用指定あり」という意味で使うことができる。

9) 第 9 桁：起床時の使用指定 以下のいずれかを設定する。

使用指定なし：0

使用指定あり：9 (就寝前指定と異なり 1 ではないので注意)

10) 第 10 桁：追加すべき時刻指定の外用タイミングを 1 つだけ設定

設定値：0 (ゼロ) または既出表 5 の英字を設定。

## 6. 2 1 日回数だけを明示した外用用法

1 日回数だけを明示した外用用法とは、「1 日 3 回」などがその例である。

「1 日 2～3 回」というような幅を持たせた回数指定もこれに含める。

「5. 6 その他の内服用法」にあげた『口腔内塗布』については、内服用法であるが、この項を使用することができる。

16 桁の各桁のうち上位 5 桁を上位の桁から順に以下のように使用し、以降の桁



は未使用として固定値 0 を設定する。

1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：2、(口腔内塗布のみ 1)

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、既出の表 1 を使用して、外用では 2 を設定する。口腔内塗布の場合のみ、内服の 1 を設定する。

2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、外用では貼付、塗布等を区別するために用いる。コード表は表 2 (末尾) を参照のこと。表 2 から英字コードを必ず指定しなければならない。なお、第 1 桁目が 1 (内服) の場合は 3 (口腔内塗布) のみ指定できる。

例：点眼 の場合には、用法詳細区分として H を指定する。

3) 第 3 桁：タイミング指定区分 固定値：7

タイミング指定区分は、外用タイミングの区分を示す情報であり、表 3 (末尾) を使用して、1 日回数のみ指定 を意味する 7 を設定する。

4) 第 4 桁：1 日外用回数または幅がある回数指定の際の小さい回数または主な回数 可変値：1～9、A

1 日外用回数は、1 日に外用すべき回数を明示するために使用する。

なお、A は 1 日 10 回を意味する。

1 日の回数を明確に回数で明示されている指示 (たとえば「1 日 3 回」など) では、第 4 桁にその回数 (たとえば 3) を設定し、次の第 5 桁には 0 を設定する。

「1 日数回」を示す場合には、第 4 桁に N を設定する。

1 日の回数をおおよその回数で示している指示 (たとえば「1 日 4 回程度」など) では、第 4 桁のその回数 (たとえば 4) を設定し、次の第 5 桁に A を設定する (A は約 (about) の意)。

1 日の回数を 2 つの回数値の幅で指定している指示 (たとえば「1 日 2～3 回」など) では、第 4 桁に小さい方の回数 (たとえば 2) を設定し、次の第 5 桁に大きい方の回数 (たとえば 5) を設定する。

「1 日 1～数回」の指示の場合には、第 4 桁に 1、第 5 桁に N を設定する。

#### 5) 第 5 桁：1 日の外用回数の補足情報（第 4 桁の補助情報）

第 4 桁の説明で記載されているように、第 5 桁は、第 4 桁の回数指定の補助情報であり、第 5 桁が 0 の場合には、第 4 桁だけで回数が明示されることになる。第 5 桁が A の場合には、第 4 桁で示される回数は「おおよそ、〇回程度」であることを示す。

第 5 桁が 1 桁の整数値の場合は、第 4 桁で示される回数と第 5 桁で示される回数との幅をもって回数指定されていることを意味する。この場合には、第 5 桁の数値は、第 4 桁の数値よりも必ず大きくななければならない。

第 5 桁が N の場合には、「数回」を意味しており、第 4 桁で示される回数から数回までの幅をもって回数指定されていることを意味する。

以上はあくまで今後の拡張性を含めた仕様であって、実際には、第 4 桁と第 5 桁の組み合わせで示される外用回数指定には、許容される組み合わせ制限があり、表 1 1（末尾）で示される外用回数指定以外は使用できない。

### 6. 3 時間間隔で明示した外用用法（時刻指定型 I）

時間間隔を明示した外用用法とは、「3 時間ごと」「4～6 時間ごと」などがその例である。後者のように時間間隔に幅をもたせて指定する用法もこれに含まれている。

16 桁の各桁のうち上位から最大で第 5 桁までを上位の桁から順に以下のように使用し、以降の桁は未使用として固定値 0 を設定する。

#### 1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：2

基本用法区分は、外用、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）を使用して、外用では 2 を設定する。

#### 2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、外用では貼付、塗布等を区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。表 2 から英字コードを必ず指定しなければならない。

例：塗布 の場合には、用法詳細区分として B を指定する。

### 3) 第 3 桁：タイミング指定区分 固定値：8

タイミング指定区分は、外用タイミングの区分を示す情報であり、表 3（末尾）を使用して、範囲で時間間隔を指定 を意味する 8 を設定する。

### 4) 第 4 桁：時間間隔または幅がある時間間隔指定の際の小さい時間間隔値

可変値：2,3,4,6,8

時間間隔を明確にひとつの数値で明示されている指示（たとえば「3 時間ごと」など）では、第 4 桁にその数値（たとえば 3）を設定し、次の第 5 桁には 0 を設定する。

「数時間ごと」を示す場合には、第 4 桁に N を設定する。

おおよその時間間隔で示している指示（たとえば「約 3 時間ごと」など）では、第 4 桁のその数値（たとえば 3）を設定し、次の第 5 桁に A を設定する（A は約（about）の意）。

おおよその時間間隔を 2 つの数値の幅で指定している指示（たとえば「2～4 時間ごと」など）では、第 4 桁に小さい方の数値（たとえば 2）を設定し、次の第 5 桁に大きい方の数値（たとえば 4）を設定する。

「2～数時間ごと」の指示の場合には、第 4 桁に 2、第 5 桁に N を設定する。

### 5) 第 5 桁：時間間隔の補足情報（第 4 桁の補助情報）

第 4 桁の説明で記載されているように、第 5 桁は、第 4 桁の時間間隔の補助情報であり、第 5 桁が 0 の場合には、第 4 桁だけで時間間隔が明示されることになる。

第 5 桁が A の場合には、第 4 桁で示される時間間隔は「おおよそ、〇時間程度ごと」であることを示す。

第 5 桁が 1 桁の整数値の場合は、第 4 桁で示される時間間隔と第 5 桁で示される時間間隔との幅をもって時間間隔指定されていることを意味する。この場合には、第 5 桁の数値は、第 4 桁の数値よりも必ず大きくなければならない。

第 5 桁が N の場合には、「数時間ごと」を意味しており、第 4 桁で示される時間

から数時間までの幅でもって時間間隔指定されていることを意味する。

以上はあくまで今後の拡張性を含めた仕様であって、実際には、第 4 桁と第 5 桁の組み合わせで示される時間間隔指定には、許容される組み合わせ制限があり、表 1 2（末尾）で示される時間間隔指定以外は使用できない。

#### 6. 4 頓用型の外用用法

ある状況になったときに外用を指示する頓用と呼ばれる指示に使用する。

5. 5 節 頓用型の内服用法と、第 1 桁、第 2 桁のみが異なり、第 3 桁以降は全く同じ仕様であるため説明は第 1 桁、第 2 桁だけについて行う。

##### 1) 第 1 桁：基本用法区分 固定値：2

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）使用して、外用では 2 を設定する。

##### 2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、外用では貼付、塗布等を区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。表 2 から英字コードを必ず指定しなければならない。  
例：塗布 の場合には、用法詳細区分として B を指定する。

##### 3) 第 3 桁以降：5. 5 節 頓用型の内服用法と同一のため、そちらを参照のこと。

#### 6. 5 外用用法における部位の指定

外用では部位を指定することが必須な場合がある。

第 2 桁目に設定される用法詳細区分は表 2 に示されているが、表 2 において附帯部位情報が不要以外のものについては、部位情報を 16 桁用法コードに加えて付加することができる。特に附帯部位情報が必須の用法詳細区分を使用する場合には、部位情報は必須である。

部位情報を記述するためのコード表として、表 1 3 を用意した。

部位情報は、1 カ所とは限らない。皮膚の軟膏塗布を指定する場合などでは、数

カ所の皮膚部位を指定することがある。したがって、部位情報は 16 桁用法コードに含めるのではなく、これとは別に部位コードを列挙する方法により指定する。その方法については実装にゆだねている。

## 7. 注射・注入コード体系の仕様

注射・注入の種別（静脈注射、皮下注射、気管内注入など）、時間的要素、機器の種別、実施環境、施行者の区別が必要不可欠な用法である。

注射・注入薬用の新たなコード体系を整備するのではなく、現状では内服薬と外用薬用として整備運用されている標準用法コードを注射・注入薬にまで拡張する形でコードとしている。これまで使用していなかった、15 桁、16 桁目を注射・注入薬のみ必要な時間的要素、機器、実施環境、施行者に割り当てている。

### 1) 第 1 桁：基本用法区分 可変値：3～4

基本用法区分は、内服、外用、注射等の区別を示す情報であり、表 1（末尾）を使用して、注射・注入では 3 および 4 を設定する。

### 2) 第 2 桁：用法詳細区分

用法詳細区分は、注射では静脈注射、皮下注射等を、注入では腹膜透析、気管内注入等を区別するために用いる。コード表は表 2（末尾）を参照のこと。表 2 から英数字コードを必ず指定しなければならない。

例：皮内注射の場合には、用法詳細区分として 4 を指定する。

### 3) 第 3 桁～第 14 桁：内服や外用の用法と同一のため、そちらを参照のこと。

### 4) 第 15 桁：時間的要素・機器区分 可変値：1～5

時間的要素・機器区分は、時間的要素や機器の区分を示す情報であり、表 1 4（末尾）により指定する。

### 5) 第 16 桁：実施環境・施行者 可変値：1～4

実施環境・施行者区分は、実施環境や施行者の区分を示す情報であり、表 1 5（末尾）により指定する。

## 8. スケジュール用法の仕様

隔日投与や曜日指定投与といった複数の日にまたがる投与スケジュールは、16桁コードとは別に8桁の補足用法コードを用いて表現する。すなわち、16桁標準用法コードに加えて、必要時には8桁補足用法コードを追加使用する。以下では、8桁補足用法コードの仕様を説明する。

### 1) 第1桁：補足用法区分

補足用法区分は日数間隔指定、曜日指定等の区別を示す情報であり、表16（末尾）を使用して、以下のいずれかを設定する。

日数間隔指定 : I  
 曜日指定 : W  
 日付指定 : D  
 期間内回数指定 : C

### 8. 1 日数間隔指定

日数間隔指定は、連続して服用する日数とその後の連続して休薬する日数を指定する用法で、「隔日投与」などがその例である。1つの用法に対し1つの補足用法コードを使用する。

#### 1) 第1桁：補足用法区分 固定値：I

補足用法区分は、日数間隔指定、曜日指定等の区別を示す情報であり、表16（末尾）を使用して、日数間隔指定ではIを設定する。

#### 2) 第2桁：連続服用日数

連続して服用する日数を、数字1～9、および英字A～Vを使用して1～31を設定する。

#### 3) 第3桁：連続休薬日数

連続して休薬する日数を、数字1～9、および英字A～Vを使用して1～31を設定する。

#### 4) 第4桁以降：0（未使用）

例：1 日おき      I1100000

## 8. 2 曜日指定

曜日指定は、服用する曜日を指定する用法で、「火曜日、金曜日に服用」などがその例である。1 つの用法に対し 1 つの補足用法コードを使用する。

### 1) 第 1 桁：補足用法区分      固定値：W

補足用法区分は、日数間隔指定、曜日指定等の区別を示す情報であり、表 1 6（末尾）を使用して、曜日指定では W を設定する。

### 2) 第 2 桁～8 桁：各曜日の服用指定

各曜日の服用有無について、日月火水木金土の順に以下のいずれかを設定する。

服用なし：0

服用あり：1

例：月曜日、木曜日      W0100100

## 8. 3 日付指定

日付指定は、服用する日を月内の絶対日付で指定する用法で、「10 日、20 日、30 日に服用」などがその例である。服用月（「毎月」を含む）ごとに 1 つの補足用法コードを使用し、服用月分繰り返すことが原則であるが、同一月内に 7 回以上服用する場合は、同一月の補足用法コードを 2 つ以上使用してもよい。なお、指定できる服用月は最大 11 ヶ月先までとする。補足用法コードは日付順に並べるものとする。

### 1) 第 1 桁：補足用法区分      固定値：D

補足用法区分は、日数間隔指定、曜日指定等の区別を示す情報であり、表 1 6（末尾）を使用して、日付指定では D を設定する。

### 2) 第 2 桁：服用月

服用する月を、数字 1～9、および英字 A～C を使用して 1 月～12 月のいずれかを設定するが、毎月同じ日を指定する場合は 0 を設定する。

### 3) 第3桁～8桁：第1服用日～第6服用日指定

服用する同一月内の絶対日付を、数字1～9、および英字A～Vを使用して1日～31日のいずれかを設定する。1つの補足用法コードで最大6回分まで設定可能である。

例1：毎月10日、20日      D0AK0000

例2：12月10日、12月20日、12月30日、1月15日、1月30日  
DCAKU000、D1FU0000

例3：毎月1日、4日、8日、11日、15日、18日、22日、25日、29日  
D0148BFI、D0MPT000

## 8. 4 指定期間内回数指定

指定期間内回数指定は、指定した期間内に服用する回数を指定する用法で、「週2回服用」などがその例である。1つの用法に対し1つの補足用法コードを使用する。

### 1) 第1桁：補足用法区分      固定値：C

補足用法区分は、日数間隔指定、曜日指定等の区別を示す情報であり、表16（末尾）を使用して、指定期間内回数指定ではCを設定する。

### 2) 第2桁：指定期間

服用回数を指定する期間について、以下のいずれかを指定する。

1年指定   ：Y

1ヶ月指定：M

1週間指定：W

### 3) 第3桁：指定期間内の服用回数

指定期間内の服用回数を、数字1～9、および英字A～Zを使用して1～35を設定する。

### 4) 第4桁以降：0（未使用）



例：週 1 回 CW100000

## 9. 不均等投与の仕様

不均等は、1 日の中の服用タイミングごとに服用量が変わる用法で、「朝 1 錠、昼 2 錠、夕 3 錠服用」などがその例である。処方スケジュール用法と同様、補足用法コードを用いて表現する。1 つの補足用法コードで 1 回分のタイミングの服用量を指定するため、1 日の服用タイミング分だけ補足用法コードを繰り返して使用する必要がある。また、服用量のみ指定し、服用単位（上記例では「錠」）や服用タイミングの名称（上記例では「朝、昼、夕」）は別途指定するものとする。1 日内のすべての繰り返しにおいて同一の服用単位でなければならない。

### 1) 第 1 桁：補足用法区分 固定値：V

補足用法区分は、日数間隔指定、曜日指定等の区別を示す情報であり、表 1 6（末尾）を使用して、不均等では V を設定する。

### 2) 第 2 桁：1 日の中での服用順

服用量を指定するタイミングの 1 日の中での服用順を、数字 1～5 を使用して設定する。

### 3) 第 3 桁～第 8 桁：服用量

指定したタイミングの服用量を数字 0～9、小数点、N を使用して設定する。小数点も 1 桁分として第 3 桁から順に服用量を設定し、未使用の桁には「N」を設定する。

例：朝 3.5、昼 2.5、夕 1.0 V13.5NNN、V22.5NNN、V31.0NNN

## 10. 用法コード表

本仕様全体を概観できる「16 桁コード仕様表」、「用法コード一覧（内服）」、「用法コード一覧（外用）」、および「3 桁目以降のコード・用語対応表」については別添する。

## 1 1. 用法コードに 1 対 1 対応する用法名称

日本病院薬剤師会・日本薬剤師会による「内服薬、外用薬に関する「標準用法用語集」等に記載される標準用法用語は、「内服」「外用」等の用法区分に関する標準用語、「経口」「舌下」や「貼付」「塗布」等の用法詳細区分に関する標準用語、使用タイミングに対応する標準用語がそれぞれ別々に独立して定義されている。一方、本仕様では、1 つの 16 桁コードが、用法区分、用法詳細区分、使用タイミングをすべて含んでいる。そのため、1 つの 16 桁コードに 1 対 1 対応する用法名称の作成方法を取り決めておくことが必要な場合がある。たとえば HL7 や JAHIS 標準規約などのメッセージ規格では、「コード、コードに対応する名称、コード体系コード」の 3 つ組みでメッセージ中に記述することがあり、このような場合に使用する「コードに対応する名称」を取り決めておく必要がある。本仕様では、このような場合に使用する「コードに対応する名称」を作成ルールは以下のようにする。

「コードに対応する名称」は以下の 3 個の文字列を全角中点「・」で連結した文字列とする。

- 1) 第 1 桁に対応する用法区分用語（表 1）
- 2) 第 2 桁に対応する用法詳細区分用語（表 2）
- 3) 第 3 桁以降に対応する用語

別添の「3 桁目以降のコード・用語対応表」

例：用法コード 16 桁が 1315 1444 0P00 0000 の場合、用法名称は  
「内服・口腔内塗布・1 日 5 回朝昼夕食後、15 時、就寝前」  
となる。

なお、この用法名称の作成ルールは、電子的メッセージ交換規約におけるメッセージ中の記述や情報システム内部で必要に応じ使用するためのものであり、処方箋や画面表示に使うためのものではない。

## 1 2. 用法コードの管理情報

本仕様によって定義される用法コード表の管理情報は以下の通りである。

OID: 1. 2. 392. 200250. 2. 2. 20

(参考: <https://www.jami.jp/jamistd/standards/>)

用法コード表のコード（CodingSystemCode）

JAMISDP01

### 1 3. 本規格でコード化できない場合の取り扱い

本規格の適用が困難な場合は、実務上の意味を損なわないよう配慮しつつ、別途適用ガイド等を作成すること。作成する際には日本医療情報学会標準策定・維持管理部会に相談すること。

### 1 4. 文中から参照される表

表 1 基本用法区分コード

用語	コード
内服	1
外用	2
注射	3
注入	4

表 2 用法詳細区分

（参考）用法詳細区分コードは、今後の新しい用法医薬品の出現に伴って増えていくことが予想されている。

基本用法区分	用語	コード	附帯部位情報
内服	経口	0	不要
〃	舌下	1	不要
〃	バツカル（歯茎と頬の間に挟む）	2	不要
〃	口腔内塗布	3	不要
外用	貼付	A	必須
〃	塗布	B	必須
〃	湿布	C	必須
〃	撒布	D	必須
〃	噴霧	E	必須
〃	消毒	F	任意

〃	点耳	G	左・右・両
〃	点眼	H	左・右・両
〃	点鼻	J	左・右・両
〃	うがい	K	不要
〃	吸入	L	不要
〃	トローチ	M	不要
〃	膀胱洗浄	N	不要
〃	鼻腔内洗浄	P	不要
〃	浣腸	Q	不要
〃	肛門挿入	R	不要
〃	肛門注入	S	不要
〃	膣内挿入	T	不要
〃	膀胱注入	U	不要
注射	静脈注射	0	任意
〃	中心静脈注射	1	任意
〃	皮下注射	2	任意
〃	筋肉内注射	3	任意
〃	皮内注射	4	任意
〃	動脈注射	5	任意
〃	硬膜外注射	A	任意
〃	脳脊髄腔注射	B	任意
〃	骨髓内注射	C	任意
〃	関節腔内注射	D	任意
〃	腱鞘内注射	E	任意
〃	腱鞘周囲注射	F	任意
〃	硝子体内注射	G	任意
〃	結膜下注射	H	任意
〃	テノン氏のう内注射	J	任意
〃	耳茸内注射	K	任意
〃	咽頭注射	L	任意
〃	胸腔内注射	M	任意
〃	痔核注射	N	任意

〃	角膜内注射	P	任意
〃	球後注射	Q	任意
〃	腹腔内注射	R	任意
〃	局所・病巣内注射	Z	任意
注入	腹膜透析	0	任意
〃	気管内注入	1	任意
〃	涙のう内注入	2	任意
〃	鼓室内注入	3	任意
〃	滑液嚢穿刺後の注入	4	任意
〃	腹腔内注入	5	任意
〃	病巣内注入	Z	任意

表 3 タイミング指定区分コード

コード	タイミング指定区分	使用できる基本用法区分			
		内服	外用	注射	注入
1	1 日回数明示、食事タイミングを基本とする指定(食事ベース型)	○	—	○	○
2	1 日回数明示、時間間隔で指定(時間間隔指定型)	○	—	○	○
3	1 日回数明示、服用時刻を直接指定(時刻指定型Ⅰ)	○	—	○	○
4	1 日回数明示、育児等の生活イベントで服用時を直接指定(時刻指定型Ⅱ)	○	—	○	○
5	服用時を身体条件やイベント種別で直接指定し、1 日服用回数を指定しない頓用指示(イベントベースの頓用指示)	○	○	○	○
6	1 日回数を明示、生活リズムで服用時を直接指定	—	○	○	○
7	1 日回数のみ指定	△	○	○	○
8	時間間隔のみ指定	—	○	○	○

△：一部（口腔内塗布）のみ

表 4 イベント前後タイミング区分

指定なし：0

イベント前指定あり：1（食前とは食前 30 分以内）

イベント直前の服用指定あり：2（食直前とは食事の 5 分前～直前）

イベント中の服用指定あり：6（食事中）

イベント直後の服用指定あり：3（食直後とは食後 5 分以内）

イベント後の服用指定あり：4（食後とは食後 30 分以内）

イベント後 2 時間後の服用指定あり：5（いわゆる食間）

イベント時：9

表 5 時刻指定文字コード

時刻	コード	時刻	コード	時刻	コード	時刻	コード
0	A	6	G	1 2	M	1 8	S
1	B	7	H	1 3	N	1 9	T
2	C	8	I	1 4	O	2 0	U
3	D	9	J	1 5	P	2 1	V
4	E	1 0	K	1 6	Q	2 2	W
5	F	1 1	L	1 7	R	2 3	X

注) 将来、この表に規定されていない 1 バイト系の英小文字を、より詳細な時刻指定のために使用することがあるので、システム設計時にはその点にあらかじめ留意しておくこと。

表6 イベント区分、イベント詳細区分

例：頭痛イベントは、両コードを結合してコード12となる。

イベント区分		イベント詳細区分	
イベント区分	イベント区分コード	イベント詳細区分	イベント詳細区分コード
痛み	1	疼痛時	1
		頭痛時	2
		歯痛時	3
		胸痛時	4
		腹痛時	5
		腰痛時	6
		関節痛時	7
呼吸	2	喘鳴時	1
		喘息発作時	2
		喉がゴロゴロする時	3
		しゃっくり時	4
		咳込時	5
循環器	3	血圧上昇時	1
		血糖上昇時	2
消化器	4	便秘時	1
		お腹がゴロゴロする時	2
		下痢時	3
		排便時	4
		嘔吐時	5
		口腔乾燥時	6
		吐き気時	7
		空腹時	8
		出血時	9
腎	5	乏尿時	1
		多尿時	2
		むくみ時	3

精神神経	6	不眠時	1
		不安時	2
		不穏時	3
		いらいら時	4
		けいれん時	5
		めまい時	6
		疲労時	7
熱	7	発熱時	1
		悪寒時	2
皮膚	8	かゆい時	1
		発疹時	2
その他症状	9	発作時	1
		症状ある時	2
医療	A	検査前	1
		検査時	2
		検査後	3
		手術前	4
		手術中 *1	5 *1
		手術後	6
		処置前	7
		処置時	8
		処置後	9
生活	B	起床時	1
		入浴前	2
		食事前	3
		食事後	4
		就寝前	5
		外出時	6
		哺乳時	7
その他	W	必要時	1
		適宜	2

コード B3（食事前）とコード B4（食事後）については、イベント詳細区分で区



別されていることに注意。

\*1 「手術中」コードは、標準用法用語集には収載されていないが使用の可能性があるので設定されている。

## 表7 イベント附帯条件区分

このコードは、表6のイベント区分、イベント詳細区分の2桁で表現されるイベントコードに結合して使用する。

例：頭痛時頓用 の場合には、頭痛イベントコード 12 に 本表のコード 0 を結合して 120 の3桁で表現される。

イベント附帯条件区分	イベント附帯条件区分コード
イベント時頓用（任意使用）	0
イベント前に使用必須	1
イベント時に使用必須	2
イベント後に使用必須	3
ある数値と等しい時、使用必須	4
ある数値未満の時、使用必須	5
ある数値以下の時、使用必須	6
ある数値以上の時、使用必須	7
ある数値超の時、使用必須	8
上記以外の型式の附帯条件を満たす時、使用必須	9

イベント附帯条件区分コードを使用する際に留意することを以下に記載する。

まず、表6の2桁と組み合わせて使用できるイベント附帯条件区分コードは決まっているので、使用できる組み合わせを表8に示す。表8に出現しない組み合わせコードは使用してはならない。

なお、頓用という用法には多義性があり、「頭痛時頓用」「食事前頓用」という指示の場合には「頭痛のある時に、（服用しなくてもよいが）服用するとよい」「（症

状を予防したい場合には) 食事前に服用するとよい」というように、「必ず服用しなければならないというわけでもない」という指示、つまり「特定条件下での任意指示」を意味する。

一方、「血圧 200 以上の時に服用」「手術前服用」「検査時服用」の指示の場合には、それぞれ「その条件下では原則として必ず服用せよ」という指示を意味することが普通であり、服用しなくても構わない、もしくは服用したければしてもよい、というような意味ではない。つまりこの場合には「特定条件下での使用必須」を意味している。

この意味の違いをコードで表現しておくことは、頓用指示が出された場合に、ある条件下で服用が必須であるかどうかを情報システムが判断して警告を出すような仕組みにとって重要である。

そこで、イベント附帯条件区分コードでは、0 を「特定条件下での任意使用」指示は 0 と使用し、0 以外を使用する場合には「特定条件下での使用必須」指示として解釈することとする。

表 8 頓用イベントコード表

イベント		区分	詳細区分	附帯条件区分
痛み	疼痛時	1	1	0
	頭痛時	1	2	0
	歯痛時	1	3	0
	胸痛時	1	4	0
	腹痛時	1	5	0
	腰痛時	1	6	0
	関節痛時	1	7	0
呼吸	喘鳴時	2	1	0
	喘息発作時	2	2	0
	喉がゴロゴロする時	2	3	0
	しゃっくり時	2	4	0
	咳込時	2	5	0
循環器	血圧上昇時	3	1	2*
	血糖上昇時	3	2	2*

消化器	便秘時	4	1	0
	お腹がゴロゴロする時	4	2	0
	下痢時	4	3	0
	排便時	4	4	0
	嘔吐時	4	5	0
	口腔乾燥時	4	6	0
	吐き気時	4	7	0
	空腹時	4	8	0
	出血時	4	9	0
腎	乏尿時	5	1	2*
	多尿時	5	2	2*
	むくみ時	5	3	0
精神神経	不眠時	6	1	0
	不安時	6	2	0
	不穏時	6	3	0
	いらいら時	6	4	0
	けいれん時	6	5	0
	めまい時	6	6	0
	疲労時	6	7	0
熱	発熱時	7	1	2*
	悪寒時	7	2	0
皮膚	かゆい時	8	1	0
	発疹時	8	2	0
その他症状	発作時	9	1	0
	症状ある時	9	2	0
医療	検査前	A	1	2*
	検査時	A	2	2*
	検査後	A	3	2*
	手術前	A	4	2*
	手術中	A	5	2*
	手術後	A	6	2*

	処置前	A	7	2*
	処置時	A	8	2*
	処置後	A	9	2*
生活	起床時	B	1	0
	入浴前	B	2	0
	食事前	B	3	0
	食事後	B	4	0
	就寝前	B	5	0
	外出時	B	6	0
	哺乳時	B	7	0
その他	必要時	W	1	0
	適宜	W	2	0

\*のある附帯条件区分コードは表7に従い、例えば次のように使用できる。

附帯条件区分 0： 特に附帯条件なしでイベント時、任意使用でよい

附帯条件区分 2： 特に附帯条件なしでイベント時、使用必須

表9 頓用時の時間間隔コード表

1時間以上あけて	1
2時間以上あけて	2
3時間以上あけて	3
4時間以上あけて	4
5時間以上あけて	5
6時間以上あけて	6
8時間以上あけて	8
12時間以上あけて	C(英大文字シー)

表10 頓用時の上限回数コード表

1日1回まで	1
1日2回まで	2
1日3回まで	3
1日4回まで	4

1日5回まで	5
1日6回まで	6
1日7回まで	7
1日8回まで	8
1日9回まで	9
1日10回まで	A
1日12回まで	C(英大文字シー)

表 1 1 外用回数指定コード表

外用用法(回数指定)	第 4 桁	第 5 桁
1日1回	1	0
1日2回	2	0
1日3回	3	0
1日4回	4	0
1日5回	5	0
1日6回	6	0
1日7回	7	0
1日8回	8	0
1日9回	9	0
1日10回	A	0
1日3回程度	3	A
1日4回程度	4	A
1日6回程度	6	A
1日1～2回	1	2
1日1～数回	1	N
1日2～3回	2	3
1日3～4回	3	4
1日4～5回	4	5

表 1 2 外用時間間隔指定コード表

外用用法(時間間隔指定)	第 4 桁	第 5 桁
2～3時間毎	2	3

4～6時間毎	4	6
--------	---	---

表 1 3 外用部位コード表

部位名称	左右指定 なし	左	右	両(左右)
全身	010	01L	01R	01B
頭皮	120	12L	12R	12B
頭部	130	13L	13R	13B
頭頂部	140	14L	14R	14B
後頭部	150	15L	15R	15B
ひたい	210	21L	21R	21B
顔	220	22L	22R	22B
まゆ	230	23L	23R	23B
まゆのまわり	240	24L	24R	24B
まぶた	250	25L	25R	25B
眼	260	26L	26R	26B
目のまわり	270	27L	27R	27B
頬	310	31L	31R	31B
鼻	320	32L	32R	32B
鼻のまわり	330	33L	33R	33B
鼻の下	340	34L	34R	34B
鼻腔内	350	35L	35R	35B
耳	420	42L	42R	42B
耳たぶ	430	43L	43R	43B
耳のうしろ	440	44L	44R	44B
耳のまわり	450	45L	45R	45B
耳の中	460	46L	46R	46B
口	520	52L	52R	52B
口角	5C0	5CL	5CR	5CB
口のまわり	530	53L	53R	53B
口唇	540	54L	54R	54B
口腔内	550	55L	55R	55B

口腔内ほほの内側	560	56L	56R	56B
口腔内上あご部	570	57L	57R	57B
上歯茎部	580	58L	58R	58B
下歯茎部	590	59L	59R	59B
舌	5A0	5AL	5AR	5AB
舌の裏側	5B0	5BL	5BR	5BB
喉の奥	610	61L	61R	61B
扁桃腺部	620	62L	62R	62B
下あご	630	63L	63R	63B
首	640	64L	64R	64B
うなじ	650	65L	65R	65B
肩	710	71L	71R	71B
上肢	720	72L	72R	72B
腕	730	73L	73R	73B
上腕	740	74L	74R	74B
前腕	750	75L	75R	75B
ひじ	760	76L	76R	76B
手	770	77L	77R	77B
手首	7E0	7EL	7ER	7EB
手の甲	780	78L	78R	78B
手のひら	790	79L	79R	79B
手の指	7A0	7AL	7AR	7AB
手の指の間	7B0	7BL	7BR	7BB
手の爪	7C0	7CL	7CR	7CB
手足	7D0	7DL	7DR	7DB
体幹部	810	81L	81R	81B
背中	820	82L	82R	82B
上背部	830	83L	83R	83B
脇の下	840	84L	84R	84B
胸部	850	85L	85R	85B
乳房	860	86L	86R	86B
乳房まわり	870	87L	87R	87B

乳首	880	88L	88R	88B
上腹部	890	89L	89R	89B
下腹部	8A0	8AL	8AR	8AB
腰	8K0	8KL	8KR	8KB
へそ	8B0	8BL	8BR	8BB
へそのまわり	8C0	8CL	8CR	8CB
臀部	8D0	8DL	8DR	8DB
陰のう	8E0	8EL	8ER	8EB
陰部	8F0	8FL	8FR	8FB
股間部	8G0	8GL	8GR	8GB
肛門部	8H0	8HL	8HR	8HB
肛門周囲	8J0	8JL	8JR	8JB
下肢	910	91L	91R	91B
ふともも	920	92L	92R	92B
ふともも後ろ	930	93L	93R	93B
ふとももとすね	940	94L	94R	94B
膝	950	95L	95R	95B
膝のうら	960	96L	96R	96B
すね	970	97L	97R	97B
ふくらはぎ	980	98L	98R	98B
くるぶし	990	99L	99R	99B
かかと	9A0	9AL	9AR	9AB
足	9B0	9BL	9BR	9BB
足首	9H0	9HL	9HR	9HB
足の裏	9C0	9CL	9CR	9CB
足の甲	9D0	9DL	9DR	9DB
足のゆび	9E0	9EL	9ER	9EB
足のゆびの間	9F0	9FL	9FR	9FB
足の爪	9G0	9GL	9GR	9GB
かゆい所	A10	A1L	A1R	A1B
カサカサした所	A20	A2L	A2R	A2B
じくじくした所	A30	A3L	A3R	A3B



ひどい所	A40	A4L	A4R	A4B
褥瘡部	A50	A5L	A5R	A5B
発赤部	A60	A6L	A6R	A6B
発疹部	A70	A7L	A7R	A7B
ストマ部	A80	A8L	A8R	A8B
カテ挿入部	A90	A9L	A9R	A9B
患部	AA0	AAL	AAR	AAB

表 1 4 時間的要素・機器区分コード表

時間的要素・機器区分	コード
ワンショット	1
点滴	2
持続投与	3
持続投与(輸液ポンプ使用)	4
精密持続投与(シリンジポンプ使用)	5

表 1 5 実施環境・施行者区分コード表

実施環境・施行者区分	コード
医療機関・医療従事者	1
医療機関・自己	2
在宅・医療従事者	3
在宅・自己	4

表 1 6 補足用法区分コード表

補足用法区分	コード
日数間隔指定	I
曜日指定	W
日付指定	D
期間内回数指定	C
不均等	V

記録：

本規格の策定にあたっては以下のメンバーが当初参加・協力した。(氏名順不同、所属は当時)

大江和彦（東京大学、日本医療情報学会標準策定・維持管理部会長）、土屋文人（国際医療福祉大学、内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会）、篠田英範（JAHIS）、下邨雅一（富士通）、中田英男（日本電気）、橋詰明英（日立製作所）、山口一人（富士通）、大月宏（日本電気）、望月聡一郎（厚生労働省）

検討WG 開催日程： 第1回 2010年2月26日、第2回 2010年3月11日、第3回 2010年6月18日、第4回 2010年7月1日、第5回 2010年8月4日、第6回 2010年10月5日

2010年11月21日、日本医療情報学会標準策定・維持管理部会（以下、部会という）の下に正式に「処方用法コード標準化検討WG」が設置され、以下のメンバーとなった。

WG座長：大江和彦

WGメンバー：土屋文人（内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会）、

古川部会員（薬剤担当）、玉川部会員（歯科担当）、宇都部会員（看護担当）、近藤部会員（臨床担当）、大月宏（日本電気）、篠田英範（JAHIS）、下邨雅一（富士通）、中田英男（日本電気）、橋詰明英（日立製作所）、山口一人（富士通）。

2011年6月17日幕張メッセ国際会議場にて処方用法コード標準化検討WGを開催し、マイナーな修正をもって部会にあげることとした。

2011年9月29日付けで一般社団法人 日本病院薬剤師会と公益社団法人 日本薬剤師会により、「内服薬、外用薬に関する「標準用法用語集（第1版）」が公表され、本規格のベースとなる標準用法が公式に確定した。これに合わせてマイナーな修正と追加を行い、処方オーダーリングシステム用標準用法『服用回数、服用のタイミングに関する標準用法マスタ』（内服および外用編）が完成した。

2012年2月16日の日本医療情報学会理事会（オンライン）において日本医療情報学会標準として承認された。

2015年11月26日に平成26-27年度厚生労働科学研究（地域医療基盤開発推進

研究事業)「電子化した処方箋の標準化様式の整備と運用に関する研究」において、内服薬と外用薬に限定していた標準用法マスタを注射薬まで拡張するとともに、かねてから懸案であったスケジュール用法、不均等投与用法について仕様が検討され策定された。この成果を反映し、本規格が完成された。本研究班会議のメンバーは以下の通り。大江和彦(東京大学)、大原信(筑波大学)、土屋文人(国際医療福祉大学)、田中勝弥(東京大学)、星本弘之(筑波大学)、池田和之(奈良県立医大)、橋詰明英(JAHIS)、下邨雅一(富士通)、木村雅彦(日本 IBM)、中田英男(日本電気)、窪田成重(富士通)、竹中裕三(パナソニック ヘルスケア)、武井心彩(パナソニック ヘルスケア)、田畑義弘(EM システムズ)。

関係諸氏に対してここに感謝の意を表する。

2018 年 3 月 1 日に、「6. 3 時間間隔で明示した外用用法(時刻指定型 I)」の 4) 5) の誤記修正を行った。

2024 年 3 月 1 日に、標準用法用語集への用語の追加等を受け、食事中の規格の追加などを行った。

2025 年 4 月 18 日に、標準策定・維持管理部会の用法課題検討 WG において、電子処方箋用法等や現実世界の運用との整合性を図る目的で仕様を検討した内容を更新した。WG のメンバーは次の通り。池田和之(日本医療情報学会・WG 長)、山下貴範(日本医療情報学会・標準策定・維持管理部会長)、大江和彦(日本医療情報学会)、下邨雅一(日本医療情報学会)、塩川康成(日本医療情報学会)、木村映善(日本医療情報学会)、横田慎一郎(日本医療情報学会)、新垣淑仁(保健医療福祉情報システム工業会)、木村雅彦(保健医療福祉情報システム工業会)、中湖豊明(保健医療福祉情報システム工業会)、堀越博一(日本薬剤師会)、田中千尋(日本薬剤師会)、舟越亮寛(日本病院薬剤師会)、高田敦史(日本病院薬剤師会)、武田理宏(臨中ネット SWG3)、永島里美(臨中ネット SWG3)、吉田直樹(臨中ネット SWG3)。